



ファミ  
リー外

川崎ゆきお

六十は過ぎているが老婆ではない。そういう一人客が深夜のファミレスに連日姿を現す。妖怪変化ではないのは確かだが、何かが変わったことは確かなようだ。

二時を過ぎるとさすがに若い客しかいない。カップルや三人四人客がしめるなか、初老の婦人客は妙だ。変だと思ふものの、なかにそういう客が混ざっていても、異常というほどではない。

その婦人は朝までいるようなので、ホームレスかもしれない。紙袋を持ち歩いていることが証拠だ。

その中にはアウトドアに必要な品々が入っているようで、時々取り出しては整理している。

二十四時間営業のファミレスに住み着いたホームレスの話があったが、この店は朝の五時で閉まる。従って、朝までの居場所なのだ。

では、この婦人はどこで眠るのだろうか。

女ホームレスの寝床がこの街にあるとの噂もある。取り壊し前の公団住宅や、放置同然のテナントなどだ。

公園で眠っている女ホームレスは少ない。いないかもしれない。さすがにそこは女性で、屋外で人に寝姿を見せたくないのだろう。

それで共同の寝所があるらしい。数人の女ホームレスが共同で使っているが、共同生活ではない。

彼女たちがどんな理由でドロップアウトしたのかは分からないが、浮浪者は男だけではないのも確かだ。

さて、その婦人だがファミレスでお茶を飲むだけの現金を持っているし、来店できるだけの衣服も持っている。

まだそこに座れることで、満更ではないようだ。

家があったころは奥様であったり、キャリアウーマンだったのかもしれない。

その婦人はぼさぼさの髪の毛だが、背筋を伸ばしてじっと瞑想している。紙袋内の整理が終わったのか行者のように動かなくなった。

この姿勢のまま朝までいるようだ。

そこへ肌を露出させた中年女が数人入ってきた。乳首が見えそうなほど胸が開いている。それはおしゃれではなく、衣装なのだ。早口で喋りあっているが日本語ではない。彼女らの働く店が終わったのだろうか。

ファミリーレストランも二時三時を過ぎるとファミリー外の客が混ざり込むようだ。そう語る男も、今夜は帰る家がない。

了

